ティーム・ティーチング

ティーム・ティーチングとは、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式のことです。チームの教員一人ひとりの特性を最大限に生かした体制であり、単に同じ場所に複数の教員が配置されているということではありません。それぞれの教員が分担する役割をしっかりと果たすことで成り立つ指導形態です。

メリット	デメリット
①多くの視点から児童生徒の実態が把握できる。 ②一人ひとりの教員の専門性や特性を生かし創造的な授業を実施できる。 ③多様な学習グループが編成でき、一人ひとりの児童生徒の実態に応じた指導が可能となる。	①教員が依存的になり、児童生徒への働きかけが滞る。 ②サブとなる教員の働きかけが児童生徒の補助や管理だけに終始する。 ③その場限りの対応となる。 ④指導目標にそわない授業になる可能性がある。

授業においては、チーフとなる教員が授業をリードし、サブとなる教員がチーフの指導を補充するなどの役割を担うことが必要です。また、日頃の教員間の人間関係を良好にしておくことが大切です。授業を行う前に、それぞれの教員がどの児童生徒にどのような働きかけをするのかなど、役割を分担し、お互いに確認しておきましょう。

ティーム・ティーチングのポイント

①題材・単元の指導計画をチームで検討する。
②指導計画に基づいて、共同で教材・教具を作成する。
③題材、単元等の終了後、指導の評価について共に協議し、改善点を確認する。

［チーフの役割］
・指導計画作成の中心となる。
・あいさつ、進行、説明、合図、手本を示す等、全体の動きを見ながら授業を進める。

［サブの役割］
・学習の動機付け、教材・教具の準備、一人ひとりに応じた支援等、全体の動きと児童生徒の様子を見ながら指導を進める。